

合格体験記 T Y (40代女性)

この度お陰様で二次試験に合格することができました。私は一次試験にあとワンマークという点数で5回ほど落ち続け、心が折れ、途中2年ほど勉強を休止しておりました。そんな私が今年、一次試験を突破し(平均73.8点)、そのまま初めて受けた二次試験に一回で合格できた最大の理由は、MMCに通ったためだと思っています。具体的には①MMCの懐の深さで、弱った心を癒し自分の可能性を信じることができ②MMCのカリキュラムで改善を繰り返し③MMCの講義でライバルを知り④MMCの厳選された少ない武器で当日戦えたためです。

① MMCの懐の深さで、弱った心を癒し自分の可能性を信じることができた ～幅のあるMMC採点基準で今の自分の延長にある合格答案を実感

昨年までの私は、一次試験には通らないし、大手予備校の答練や模試を受ければ平気で10点などの点数を取り、私は一体何をやってきたのだ、と自信喪失し、心身ともに弱っていました。しかし今年、初めてMMCの答案返却を受けたとき、私も書ける!受かるかも!とやる気・自信を取り戻せたのを覚えています。二次合格は今の自分の延長にある手の届くものだ、ならば一次も絶対に合格しなければ…、その現実感が一次試験対策にも好影響を及ぼしました。

試験本番で本当に役立ったのは「MMCの金型を使った守る答案を迅速に安定的に書ける」という感覚でした。第4回の直前模試で私は全体の上位7%以内の点数が取れました。しかし事例Ⅰ～Ⅲでは大したことを書いた実感はありません。それでも大失敗せず中くらいの無難な答案を揃え、事例Ⅳで出来る問題を取る、すると相対的にそこそこ上位にいくのだなあという合格のイメージが湧きました。MMCの採点基準を信じ、本試験まで、この感覚を大事にし、安定的に無難な答案を置いてくるという戦略の拠り所といたしました。

② MMCのカリキュラムで改善を繰り返した

～緻密なMMCカリキュラムでPDCAを回し段階的成長を実感

一次中心に勉強時間を配分していたため、夏までの二次対策はMMCの答練の復習のみでした。しかしMMCのカリキュラムに乗るだけでも、徳川先生は金型やキーワードを繰り返してくださるので、使えるレベルにまで昇華していきました。事例Ⅳでは、経営分析→CVP→CFの順に確実に固めていくよう助言され、その順番に答練、模試の問題が出るので、下手に他の論点に分散投資しなくても安心でした。ここでMMCの事例Ⅳ対策(答練、模試、講義後の応用計算問題、GWの特訓問題、ファイナル財務等)は巷での評判通り本当に秀逸であることをお伝えしたいと思います。問題は重要論点の引っ掛けポイントを段階的に変えてあるため、ひとつの論点を多面的に練習できます。解説が詳しく端的に記載されているため、自習でも繰り返すうち理解が深まります。私自身、事例Ⅳ・財務会計が一番成長を感じられ、一次では昨年40点台から今年は84点が取れ、二次では事例Ⅳが一番落ち着いて解くことができました(再現答案のMMC採点でも一番点数が良かったです)。

また、講義後の疲れた頭で解く応用計算問題や試験直前期に一日3から4事例を連続して解くMMCのカリキュラムは、脳に負荷を掛け、ワーキングメモリを増やすのに有効だと思います。今年私が一次試験対策として大きく変えた点が、直前期に一日に解く問題数を本番の倍に増やし脳に負荷を掛ける方法でした。この方法は

一次本番の持久力や判断力の向上に役立ったのに加え、二次にも大きく影響を及ぼしました。ひと月くらい二次対策を休んでいたものの、一次本試験直後の第3回模試では、与件文読解や設問解釈にそれまでほど苦痛に感じない余裕ができ、合格点を取ることができました。そしてMMCの直前対策の一日3事例から4事例を解くことによる脳への負荷は半端なく、ワーキングメモリがさらに増えた気がします。

③ MMCの講義でライバルを知ることができた

～MMCの双方向講義、アドバイス返却で自分の位置を確認

MMCで双方向の授業だったことは、今まで孤独に勉強をしてきた私にとってライバルを知る上でとても参考になり、また、クラスの皆さんに対し勝手な仲間意識も芽生え励みになりました。私は土曜日に一番後ろの席で講義を受けていました。前の方に座っている若者たちは非常に素直で、徳川先生の無茶ぶり質問にも付度して（いるふりをして？）答えます。ボケ突っ込み劇場を中居先生と繰り広げる方もいらして、笑いをこらえるのに困ったこともありました。それらやり取りを通し、本試験での付度する意識（設問に寄り添い、素人っぽく答えた方が好印象など）が身に付き、自分の集中力や知識は他の人と大差ないということもわかりました。

また、後ろの席では、他の方の答案返却のアドバイスも盗み聞くことができました。成績優秀者ほど失敗原因の分析を緻密に細分化し、改善策をより具体化している傾向があることに気づき、そのレベル感を自分のPDCAに取り込み間違いメモに書き止めていきました。このPDCAを本番前日まで繰り返し、失敗する確率を徐々に下げていきました。アドバイス返却では顔も名前も先生方に覚えられるため、サボりがちな私の戒め、強制力になったのも事実です。

④ MMCの厳選された少ない武器で当日戦えた

～MMCの因果を示す金型、多面性を示す切り口、端的に伝えるキーワード

講義の中で「二次試験は他の人が脱落していく中で、指一本でどれだけぶら下がりが続けられるかの過酷な戦いのイメージ」と言われたことがあり、ずっと私の頭にありました。私の二次試験当日はまさにこの通りで、今思い出しても緊張で息苦しくなります。全問手が震え、枠からはみ出る右手を左手で押さえながらミミズが這ったような字をなんとか枠内に収めてきた感じです。しかし、そんな極度の緊張状態でも、パニクる波に飲みこまれず抗い、無難な答案を書いて来られたのは、MMCで培ってきた厳選された少ない武器（キーワードや因果を示す金型、多面性）を、酔っ払っていても書ける自宅の住所のように定着させ、外段取化して準備していたからだと思います。

例えば本試験の事例Ⅲでの与件文は私にとって長く複雑でした。後工程引取方式での川上側？しかも、今までの方法と併存？こんな複雑なことは、それまで考えたこともありません。本番で初めて考えることは時間を浪費するばかりで正解にたどり着く確証もないため危険すぎる、と瞬時に逃げる判断をしました。具体的には後工程引取方式に変更したときのレイアウトと、生産方式（受注のままなのか、見込になるのか）その辺はもう深入りせず、自分の準備してきた武器だけ（日程計画など）を書いてマスを埋めようと判断しました。そして、その問題検討で時間がかかった分、第2問の効果とリスク問題（答練で何度も練習した金型、多面性（効果2個、リスク2個）を使って）を5分以内で解答しました。不明な点は掘り下げず、自分が分かるところと不明なところを切り分け、逃げる問題かどうか優先順位を判

断し、題意から外れていないか何度も確認し、MMCで準備してきたものだけを置いてきました。武器を絞り、自分の限界が分かっているからこそ、瞬時の判断ができ、無難に守れたと思っています。

さいごに

毎週末の答練や模試では、大小実に様々な失敗を繰り返しました。課題を問題点として答えたり、時計や電卓を忘れたり、会場を間違えて大遅刻したり、終了時間の見積もり違いで空欄を2問も作ったり、自分が不甲斐なく、悔しくて帰りの電車で涙が出てきたこともあります。それでもすべては本試験に失敗しないための未来的積極的攻撃的戦略的ミス！神がくれた機会！と自分を鼓舞し、間違いメモに書き止め、改善に繋げました。

一次試験直前には元気だった義母の突然の不幸があり、かなりの悲しみや動揺がありました。それでも合格に向かって走り続けられたのは、夫の支えはもちろんのこと、MMCで合格が見えていたからだと思っています。面白く分かり易い講義をしてくださった中居先生、試験を難しく捉え過ぎないことを教えてくださった徳川先生、外段取りの大切さを教えてくださった勝山先生、切り口の見つけ方を教えてくださった中矢先生、そして不屈の精神を穏やかに教えてくださった伊藤先生、本当にお世話になりました。感謝してもしきれません。ありがとうございました。